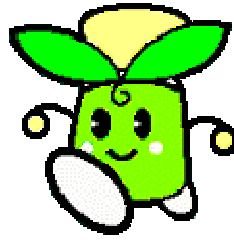


菫 桜 (わかざくら)

～南中校長室より～

平成 29 年度 NO. 6

平成 29 年 9 月 1 日



Be Proud Of Us

連日の猛暑日。そして、台風 4 号の直撃、局地的な豪雨。そして、世界陸上、世界選手権で幕を閉じた夏休み。まだまだ暑い日が続きます。体調には十分に注意してください。

夏休み前後に行われた県総合体育大会。勝負の世界ですから勝者、敗者が生まれるのは当然のことですが、生徒たちを一段と成長させてくれたものと感じています。二学期からの学校生活や授業へ生かしてもらいたいと思います。二学期は、文化発表会 9 月 22 日(金)、体育大会 10 月 7 日(土)、音楽発表会 11 月 1 日(水)を始め学校行事も多く、生徒たちの主体的・自主的な活動が求められますが、一人一人が役割を自覚し、責任ある活動となるよう指導していきます。随時、ご案内をさせていただきますので、保護者の皆様のご参観をお願いします。保護者の皆様には、二学期も、温かいご支援とご協力の程、よろしく申し上げます。

全ての生徒が安全で、安心な学校生活を送るために！

<生徒>

—生駒南中学校 5 つの約束の実践—

- 「笑顔であいさつ」 1 日 10 回以上 「あいさつ革命スクール南中」を実現しよう
- 「読書で心の栄養補給」 1 ヶ月 1 冊以上 「人としての成長」の糧にしよう
- 「家庭学習で学力アップ」 1 日 1 時間以上 家庭生活のリズムを創ろう
- 「ほめてほめられ **Be Proud Of Us**」 1 日 1 回以上 自尊感情を高めよう
- 「地域活動に **Let's Go**」 1 年 2 回以上 地域の一員としての自覚を持とう

<教職員>

- 一人一人の個性、長所を積極的に認め、どの子ども活躍できる場を創造していく。「(ほめて育てる)」の推進
- 生徒の心を耕やし、「いじめ絶滅」を目指して、朝の会、終わりの会をはじめ、学級活動の時間、道徳の時間及び総合的学習の時間等を通して「命の大切さ」を訴え続ける
- 小さなことも「家庭連絡」を基本に、共に子どもの成長のために考えていく。
- 校内の巡回をすべての教師で実施し、子どもたちと接する時間を大切にしていく。
- すべての教師が同じ歩調、「一枚岩」になった指導をし、担任、副担任、部活動顧問等、立場は異なるが、すべての教師が、すべての生徒に関わっていく。「(ほう・れん・そう)」の徹底と教職員の連携の強化
- わかる授業」の実践のため、全教科で共通に取り組むことや教科の特性に応じた指導法を追求する。
- 家庭児童相談所や警察、病院など関係機関との連携を深めていく。

学校カウンセラーの予定

岸田カウンセラー 8 日(金) 15 日(金) 22 日(金) 29 日(金)

川端カウンセラー 12 日(火) 19 日(火)

知り合いのご夫婦に赤ちゃんが生まれた。長い間ほしいほしいと願っておられたので、周り中みんな喜んで、笑顔がいっぱいになった。「生まれてきてくれてありがとう」。お父さんもお母さんも。わが子をだいてそう言った。5歳になっても「大好きよ」と言って毎日だきしめた。今は10歳になった子どもに、「あなたがいてくれてどんなにうれしいか」と話をするそうじゃ。その子は、自分が大事な存在だとわかるから、他の人も同じように大事だと思う。思いやりのある、命の大切さがわかる人になる。

けれども残念なことに、そう言ってもらえない子どもたちも多い。中には、「あんたなんか生まれなきゃよかった」と言われたり、存在を無視される子もいる。そんなひどいこと、誰にも言わないでもらいたい。そんなことされたら、心が荒れて、自分も人も大事なんでできないよ。

すべての子どもたちに、「ただいてくれるだけでいい」と、抱きしめてくれる人がいてほしい。他の人に向かって「しね」と言う子どもたちは、そんな人がいない寂しさをぶちまけているのかもしれない。それでまた傷つく人が増えるなんて、悲しくて切なくて、もったいないことじゃ。

もしも、自分が死んでも悲しむ人がいないという子がいたら、私がすごく悲しむよと言って、いっしょに泣きたいよ。

どの子もみんなかけがえのない大切な命。(毎日新聞、「もったいないばあさん日記」より)

<終業式に確認をしました>

- 「塩分タブレット」は、学校で用意したものを顧問が適宜配布する。スポーツドリンクは許可する。
- 「制汗スプレー」は臭いに敏感な生徒もいるので無香料のものを許可する。
- 登下校中の「名札」は裏返し着用又はポケットに入れる。(不審者対応)学校ではきちんと着けること。
- 「髪の高い生徒」は技術家庭や理科の授業ではくくる。(危険)また、給食の配膳時もくくる。(衛生面)
- 残念ながら「傘」へのいたずらが無いとはいえないので、昇降口には置かず、教室で持つていくこと。

話をしっかり聴こう

子どもは、聴いてもらえているという実感が普段から得られていないと、当然人の話を聴こうとしないのです。「正しく伝える、正しく受け取る」の二つのコミュニケーション。「正しく受け取る」が十分でない则会話が成り立たなくなってしまいます。子どもが聴いてもらっていると実感できるように、子どもの話をじっくりと聴きましょう。

子どもの話を聴くコツ！

- 1 内容よりも「気持ち」に関心をもつ
- 2 子どもが話す内容を否定しない
- 3 1日10分！子どもの話を真剣に聴く

子どもにとって、自分の気持ちをうまく言葉で表現するということは、なかなか難しいことです。「何か伝えたい！」という気持ちばかりが前に出てしまい、内容がわかりにくかったり、子どもの気持ちがきちんと伝わらなかったりします。話の内容よりも、「子どもはどんな気持ちで言ったのか？」ということに関心をもつことが大切です。子どもの言葉を噛みしめ、気持ちを感じ取ってください。子どもと心のリズムを合わせることも大切です。子どもの気持ちが焦っている様な場合は、「うん、うん、うん」とあいづちをリズムカルに入れながら、言葉が

途切れたところで、子どもの言葉を繰り返してみるのもよいでしょう。子どもも本当に聴いてほしいことを落ち着いて話せるようになります。聴いている時に、自分の考えと違くと、「そんなのだめっ!」「あ〜、なんでそんなことしたの!」と反射的に否定してしまうことがあります。そうすると、子どもの話を「聴く」のではなく、こちらのほしい情報を「訊く」だけの時間になってしまいます。間違いを訂正する場合は、最後まで聴いてから、やさしく教えるようにしましょう。また、家事や仕事などで忙しくて全部を丁寧に聴いてあげる時間がない場合や、どうしても心に余裕がない時には、聴いてあげようとしてもできないこともあります。そんなときには、聴きたい気持ちはあることやできない理由、いつならできるかを伝えてあげてください。そして、後でゆったりとした気持ちでじっくりと子どもの話を聴いてあげてください。自分の話を十分に聴いてもらったという満足感は、他の人の話をしっかりと聴くことにつながります。(奈良県教育委員会 人権・地域教育課家庭教育課 資料より)

2 学期始業式校長講話から

～ 今、心が苦しくなっているあなたへ ～ 身近な人がきつと力に

誰にでも心が苦しくなることがあります。思いがけない災害や事件・事故によって大切な人やこれまで積み上げてきた日々を失ってしまう、健康を害して思うように動けない。周囲の人に自分のことを理解してもらえない、自分のことで周りに負担をかけてしまう・・・など、など。一つでも辛いけど幾つも重なると、誰もが心が苦しくなってしまいます。

苦しい時間が長く続くと、苦しみが永遠に続くと思ってしまう。まず、ゆっくりと深呼吸し、顔を上げてみませんか？気づかなかったかもしれませんが、あなたの周りには、あなたを気遣って力になりたいと思っている人が必ずいるはず。思い切って苦しい気持ちを話してみませんか？話すは放す、離すとも言います。話すうちに、問題と距離がとれ、解決の糸口が見つかることも少なくありません。苦しいときに誰かに話すことは、恥ずかしいことでも何でもなくて、生きていく上での大きな力です。

だれにでもこころが苦しいときがある

どんなに苦しくても 必ず終わるがある

誰かに相談できる力を持つ

今、大切な人が苦しんでいることに心を痛めているあなたへ。彼、彼女があなたに話をしてくれないのは、あなたを信頼していないからではありません。あなたに負担をかけることを心配したり、あなたの存在に気づかないほど苦しみに押しつぶされたりしているからです。そっと寄り添って声をかけてあげて下さい。「なんだかつらそうだけれど、よかったら話を聴くよ」と話してくれるなら、とにかく口を挟まずに話を聴いて下さい。すぐには話せそうにないときも「いつでも話を聴くから言ってね」の一言で、あなたの存在は大きな力になります。

生駒市で「安全を確認する日」

8月16日(水) 奈良テレビ

去年夏、生駒市の中学で生徒が熱中症で死亡した事故からきょうで1年となります。生駒市では、再発防止に向けた取り組みが行われました。

この事故では去年8月16日に、生駒市立大瀬中学校でハンドボール部の当時1年生の男子生徒が部活動中に熱中症で倒れ、翌日に亡くなりました。事故を教訓に生駒市では、この日を「安全を確認する日」と定め、市内の小中学校などで研修会などの取り組みを実施しました。このうち市役所では、市内の9つの中学校の部活動担当者が集まって熱中症対策などの現状などについて情報交換などを行う会議を開きました。そして中田好昭教育長が、悲惨な事故を風化させないためにもこのような取り組みを続けていきたいと呼びかけました。また、市内のホ

ールでは、生駒南中学など実際に生徒を指導する15人の教諭が参加して不測の事態に備えた応急手当として、AEDを用いた心肺蘇生法の研修が行われ、参加者は真剣に取り組んでいました。

○胸骨圧迫（心臓マッサージ） *迷ったら 胸骨圧迫とAED*

人工呼吸を2回行なったら、胸骨圧迫（心臓マッサージ）を開始する。胸の真ん中に手の付け根を置き、もう片方の手を重ね、両手の指を組む。肘を伸ばし、垂直に圧迫（傷病者の胸が4～5cmくらい沈む程度の強さ）。このとき、早いテンポで、絶えまなく行なう。また、圧迫と圧迫の間は、しっかりと胸が戻るまで、圧迫をゆるめること。これを30回続ける。胸骨圧迫を30回行なったら、人工呼吸を2回行なう。（心肺蘇生法）救急車が到着し、救急隊に引き継ぐまで、休まず続ける。

○AED装着（AEDの電源が入ると、音声メッセージが流れる。それに従う）

傷病者の衣服を脱がせ、胸をだし、AEDの電源パットを貼る。電源パットを貼ったら、自動的に心電図の解析を行なうので、周囲の人に離れるよう促す。電気ショックが必要な場合は、音声メッセージに従って、ショックボタンを押す。このときも、周囲の人に傷病者から離れるよう促す。電気ショックが終了したら、音声メッセージに従って、心肺蘇生法を再開する。

5ヶ月遅れの卒業式（8月23日）

病気療養のため入院していたA君が退院しました。A君は3月の卒業式に参加できませんでした。8月23日に同級生、保護者、教員の約30名が集まり卒業式を実施しました。

<校長式辞>

本日は 残暑厳しい折 A君の5ヶ月遅れの卒業式にご参列いただきありがとうございます。先ほど、卒業生たちが、大きな声で校歌を歌ってくれたことをうれしく思います。また、A君のために今日は集まってもらいましたが、A君のおかげで、皆さんの元気な顔を拝見できました。ご存知のように A君は去年の2学期より 体調不良により入院し、3月の卒業式には出席できませんでした。病気の方も癒え。退院され、今日の日を迎えることとなりました。A君はこの一年間、病気と闘い、大変な思いをされてこられたと思います。そんな中で、こうして卒業式を迎えられるのは ご両親 兄弟 友人等 様々な人の支えがあったからだろうと思います。私たちは この世の中に「生きている」のではなく 周りの支えで この世の中に「生かされている」。だからこそ 自分の命を大切にだけでなく人の命も大切に生きなければならない と そんなことを考えました。これから いよいよ高校生活が始まります。当たり前の日々が当たり前になることに、そして 周りの人たちと笑ったり 泣いたり いかたたり 喜んだりできることに感謝し、新しい人生を歩んでいってもらいたいと思います。生駒南中学校は「一人ひとりを大切に教育の実践」では、一定の評価を得ています。「だれにも優しい生駒南中学校」を地域の方々や各高校の皆さんに伝えていただければうれしく思います。A君の そして ここに列席していただいている皆さんのご健勝とご活躍を祈念して 簡単ですが 卒業式の式辞といたします。A君、本日はご卒業おめでとうございます。